



## このマニュアルについて

このマニュアルでは、CORBA アダプタ (CAD) について説明します。CAD は、CORBA (Common Object Request Broker Architecture) を利用して Machine-to-Machine Interface (MMI; マシン間インターフェイス) を提供します。このアーキテクチャは、Object Management Group (OMG; オブジェクト管理グループ) という組織によって定義されています。

CAD インターフェイスは、Cisco BTS 10200 ソフトスイッチ製品をプロビジョニングする手段を提供するもので、機能は Command Line Interface (CLI; コマンドライン インターフェイス) アダプタに類似しています。CAD を通じて、Cisco BTS 10200 ソフトスイッチを一貫性のあるオブジェクト指向モデルに抽象化することができます。このインターフェイスの実際のオブジェクト モデルについては、このマニュアルでは説明しません。

CORBA インターフェイスで使用するトークン (パラメータ) とその値の詳細については、『*Cisco BTS 10200 Softswitch Command Line Interface Reference Guide*』を参照してください。



(注)

このマニュアルでは、OpenORB を使用した CORBA について説明します。Visibroker を使用する場合は、『*Cisco BTS 10200 Softswitch Release 3.2/3.3/3.5 Programmers Specification*』を利用してください。

### 改版履歴

リリース番号	変更点
5.0	変更点はありません。
4.5.1	CORBA 仕様 Release 2.4 に準拠しました。「接続とトランザクション」項に情報を追加しました。「データの一括取得 (ページング)」項に情報を追加しました。アーキテクチャと設計に関する情報を新しく追加しました。「プロキシ」章およびトラブルシューティング情報を追加しました。Software Development Kit (SDK; ソフトウェア開発キット) による拡張機能の詳細については、 <a href="#">付録 C 「CORBA クライアント パッケージ (BTSxsdk) のサンプル実装」</a> を参照してください。
4.5	「付録 C」を新しく追加しました。OpenORB を 1.3.0 から 1.3.1 に変更しました (jar ファイル名で使用されているものも含む)。
4.4.0/1	「CORBA の Secure Sockets Layer サポート」、「データの一括取得 (ページング)」、および「XML インターフェイス」の情報を追加しました。BTS 10200 IDL を更新しました。セキュリティとトラブルシューティングに関する第 4 章と第 5 章を新しく追加しました。
4.1	変更点はありません。
3.5.2	OpenORB の変更点が組み込まれました。

3.5	マクロ コマンドが導入されました。
3.3	CORBA の拡張機能が導入されました。
1.0	CORBA が導入されました。
すべて	無効な文字に関する表を追加しました。

## 対象読者

このマニュアルは、中級から上級の CORBA プログラマを対象としています。CORBA プログラミングについて、中程度以上の知識があることが前提になります。

## インターフェイス

この CORBA アダプタ (CAD) では、CORBA 仕様 2.4 で定義されている分散オブジェクトベースのアプリケーションの開発および展開に、OpenORB 1.3.1 インターフェイスを使用します。

## XML インターフェイス

この XML インターフェイスは、CORBA 自体から派生したものです。OpenORB パッケージは、Transmission Control Protocol (TCP) または User Datagram Protocol (UDP) を使用する Internet Inter-ORB Protocol (IIOP) を接続に使用します。NameService のナローイングによって、BTS10200 のオブジェクトも生成されます。ナローイングの詳細については、Cisco BTS 10200 ソフトスイッチ SDK パッケージのコード例で説明しています。このパッケージは、Cisco BTS 10200 ソフトスイッチ アプリケーションに付属しています。

アプリケーションレベルの個々の接続またはオブジェクトを作成するには、大量のオブジェクトプール化と多数のログインを通じて、有効なログイン キーを BTS10200 オブジェクトのインスタンスごとに取得する必要があります。この例については、付属の SDK パッケージで参照できます。

## データの一括取得 (ページング)

CLI の **show** コマンドを使用すると、データを一括で取得すること (ページング) ができます。大きなデータセットを表示する場合は、ページングの使用が必須です。ただし、データを初めて要求してページングがセットアップされる時は、パフォーマンスが低くなります。いったんページングされたデータを以降に要求した場合は、データがキャッシュされているため、高速で取得することができます。この処理は、セッション (キー) ごとに適用されます。該当のセッションに対して他の何らかのコマンドを実行すると、キャッシュされているデータはすべてフラッシュされます。最高のパフォーマンスを得るには、要求するページング済みのデータが、すべて連続している必要があります。詳細については、『Cisco BTS 10200 Softswitch Operations, Maintenance and Troubleshooting Manual』および『Cisco BTS 10200 Command Line Interface Reference Guide』を参照してください。



(注)

limit トークンについては、単一の show コマンドによるページングは、自動的に最大 500 行に制限されます。

## 接続とトランザクション

CORBA は、最大で 50 の同時セッションをサポートします。セッションとは、CORBA インターフェイスに対する有効なログインです。また、CORBA は 20 の同時トランザクションをサポートします。トランザクションとは、個々の要求です (show や change など)。

各ログインセッションには、個々の CLI と同様に、それぞれ固有のリソース セットが割り当てられます。これらのセッションは、アイドル状態になっていないかどうかを監査対象になります。セッションが 10 分以上アクティブになっていない (コマンドを実行していない) 場合、セッションはアイドル状態と見なされ、インターフェイスから削除されて、すべてのリソースが解放されます。



(注)

このアイドル期間は、以前のリリースとは別の値に変更されました。以前のデフォルトは 30 分で、現在は 10 分です。アイドル期間は、CIS アプリケーションの `bts.properties` ファイルで設定できます。このプロパティ ファイルは、Cisco BTS 10200 ソフトスイッチの `/opt/BTScis/etc` ディレクトリにあります。

## 技術情報の入手方法、サポートの利用方法、およびセキュリティ ガイドライン

技術情報の入手、サポートの利用、技術情報に関するフィードバックの提供、セキュリティ ガイドライン、推奨するエイリアスおよび一般的なシスコのマニュアルに関する情報は、月刊の『*What's New in Cisco Product Documentation*』を参照してください。ここでは、新規および改訂版のシスコの技術マニュアルもすべて記載されています。次の URL からアクセスできます。

<http://www.cisco.com/en/US/docs/general/whatsnew/whatsnew.html>

